

2025年12月期第2四半期(中間期)決算

補足説明資料



株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

1. 2025年12月期 第2四半期(中間期)決算概要 … 2

2. 2025年12月期 業績予想 … 13

3. 配当金について …17

4. 決算説明動画 のご案内 … 19

(補足資料)テクノフレックスの概要 … 21



▲ 昨年末に稼働開始した北海道工場(苫小牧市)

1. 2025年12月期 第2四半期(中間期)決算概要

2025年12月期 第2四半期(中間期) 連結業績 1 前年同期比・予想比



◆ 連結業績(前年同期比・予想比)

単位:百万円

	連結業績		前年同期比 (伸長率)		業績予想比				
	2024_2Q	2025_2Q			期初・ 7/15修正後	2Q累計(中間期)		通期	
						計画値	進捗率	計画値	進捗率
連結売上高	10,318	12,565	2,246	21.8%	期初予想	11,800	106.5%	23,000	54.6%
					7/15修正予想	12,500	100.5%	23,700	53.0%
連結営業利益	1,034	1,919	885	85.6%	期初予想	1,100	174.5%	2,400	80.0%
					7/15修正予想	1,900	101.0%	2,900	66.2%
親会社株主に帰属する 当期/中間純利益	615	1,326	710	115.6%	期初予想	700	189.4%	1,650	80.4%
					7/15修正予想	1,300	102.0%	2,500	53.0%

- ✓ 当期は、期初の業績予想(2025年2月10日付開示)を上回る増益となり、同年4月24日、6月13日および7月15日の計3回業績予想の修正を開示しております。このうち上記の表では、期初および直近の7月15日付予想値との比較を表示しております。なお、6月13日付業績予想の修正は、不動産の売却が決定したことにより、下期に特別利益を計上する見込みとなったことに伴う修正です。
- ✓ 通期の業績予想につきましては、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であったため、当社グループの業績への影響を算定することが難しく、期初の業績予想に上記の特別利益を加味した金額としてまいりました。今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示いたします。

● 連結売上高

- ✓ 全てのセグメントが、前年同期比で増収でした。

【国内】

- ・ 半導体関連の市場を中心に、真空機器(継手事業)や真空配管分野(防災・工事事業)が好調でした。
- ・ 建設市況が弱含みの中、フレキシブル継手と伸縮管継手(共に継手事業)が、売上を伸ばしました。

【海外】

- ・ 半導体関連等の真空機器が、前期からの好調を維持しています。

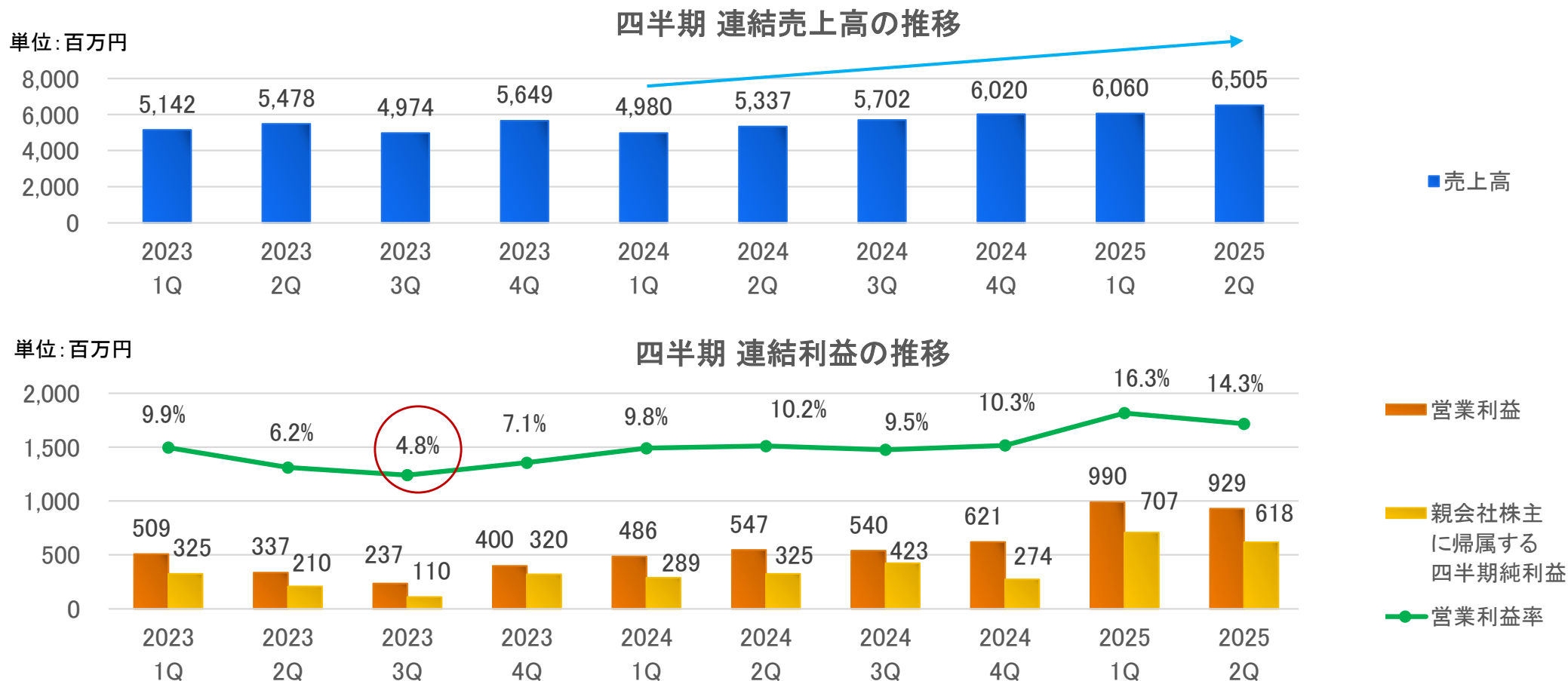
● 連結営業利益

- ✓ 全てのセグメントが前年同期比で増益となり、利益率も向上しました。
- ・ 国内外で、付加価値の高い半導体関連の真空機器等が増収となり、利益貢献しました。
- ・ フレキシブル継手や自動車分野(自動車・ロボット事業)等は、物価高騰分の価格転嫁により、利益率の改善が進みました。
- ・ 防災・工事事業は、北海道工場への投資が効果を発揮し、利益率が改善しました。
- ・ ロボット分野は、中国市場の低迷から大口顧客で在庫調整が続きましたが、同顧客が米国で市場を拡大し、在庫調整が落ち着いたため、当期1Q以降は回復傾向にあります。

● 親会社株主に帰属する中間純利益

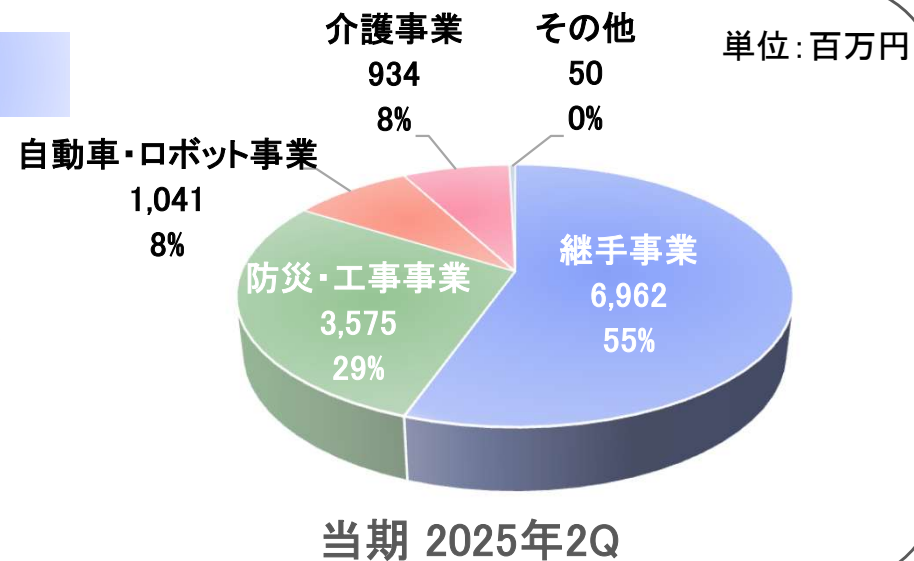
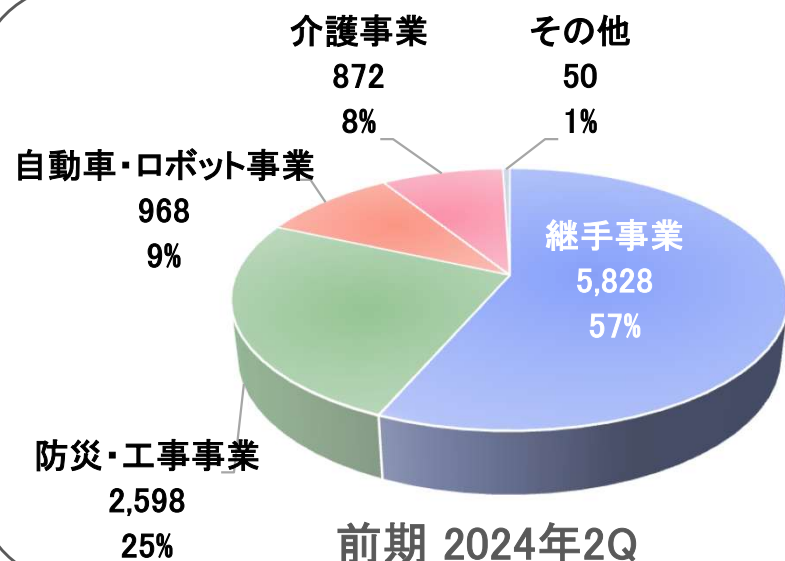
- ✓ 連結営業利益の増加により、前年同期比で増益となりました。
- ✓ 当期6月13日に開示いたしました不動産の売却による特別利益は、当期下期に計上される見込みであり、親会社株主に帰属する中間純利益には、計上されておられません。

2025年12月期 第2四半期(中間期) 連結業績 3 四半期業績の推移

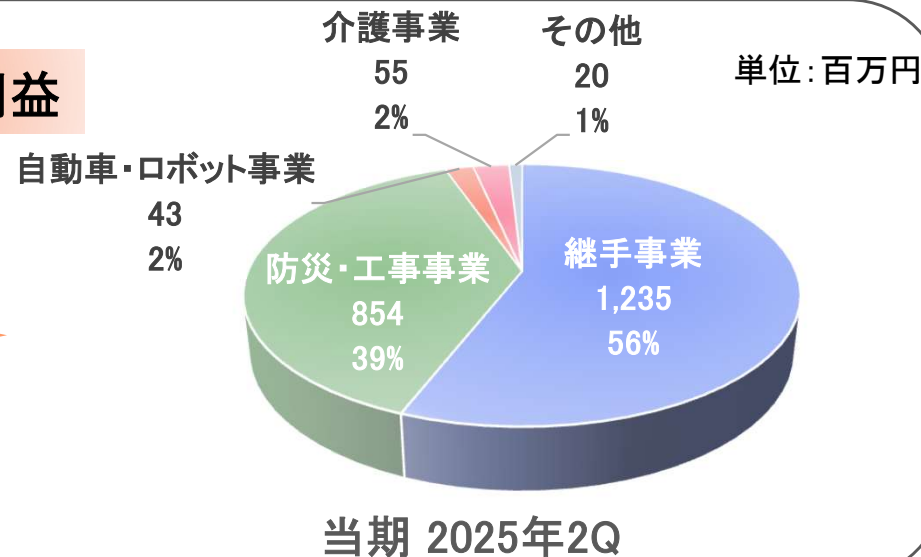
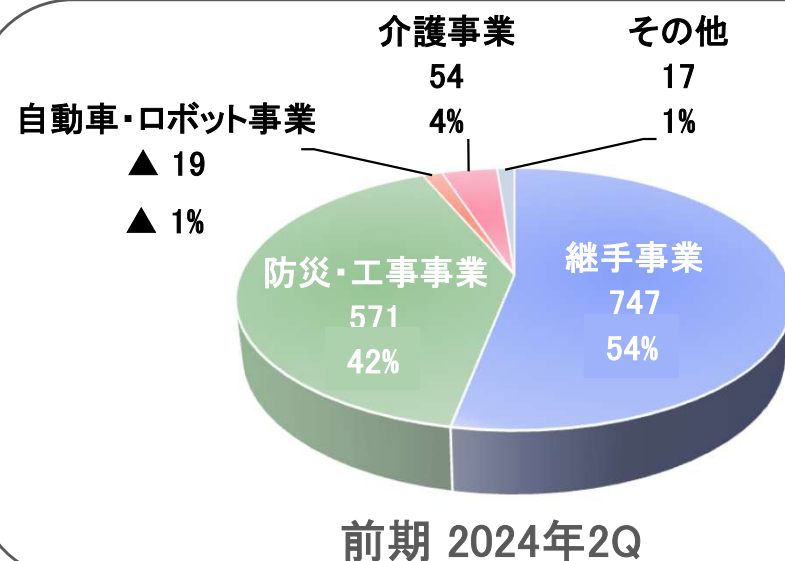


- 四半期業績は、半導体工場の設備投資や再開発事業等の大型案件を計上するタイミングで、大きく変動します。
- 当期1Qの利益率が高いのは、消防設備分野(防災・工事事業)で、利益率の高い追加工事を売上計上したこと等が、主な要因です。
- 半導体関連の事業が好調であり、連結売上高は、前期1Qから毎四半期ごとの増収が続いています。
- 営業利益率は、急激な円安・物価高騰などから4.8%まで低下していましたが、半導体関連等の高付加価値事業による増益と、物価高騰分の価格転嫁が進んだことから、回復してまいりました。

売上高



セグメント利益

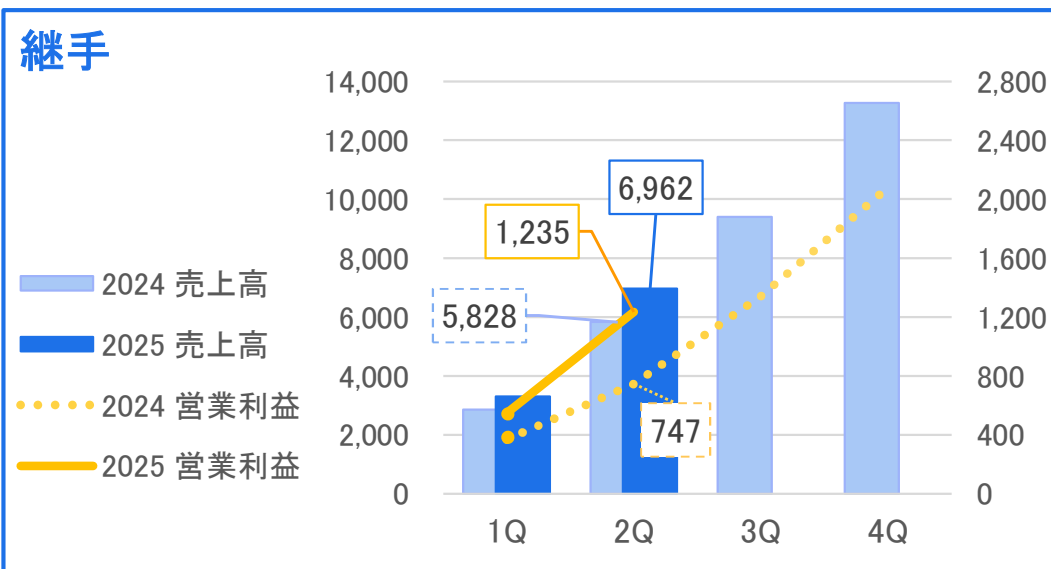


2025年12月期 第2四半期(中間期) セグメント業績 1 前期比(累計)

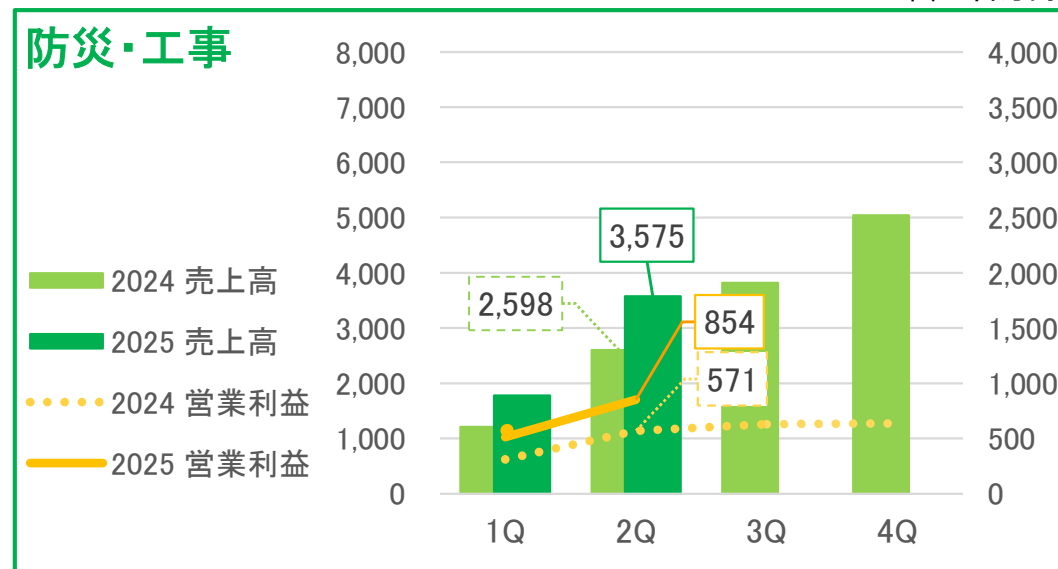


単位: 百万円

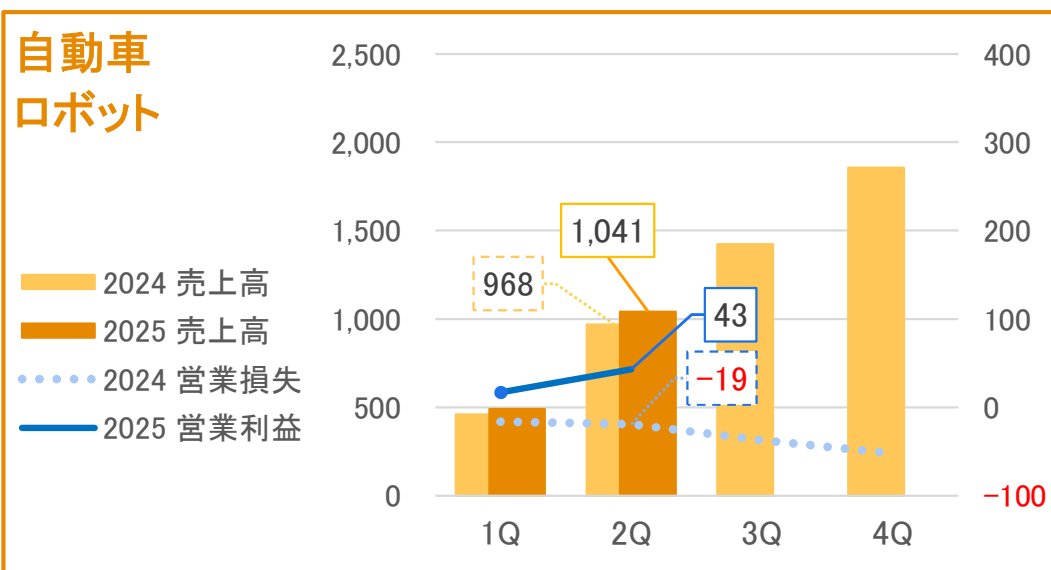
継手



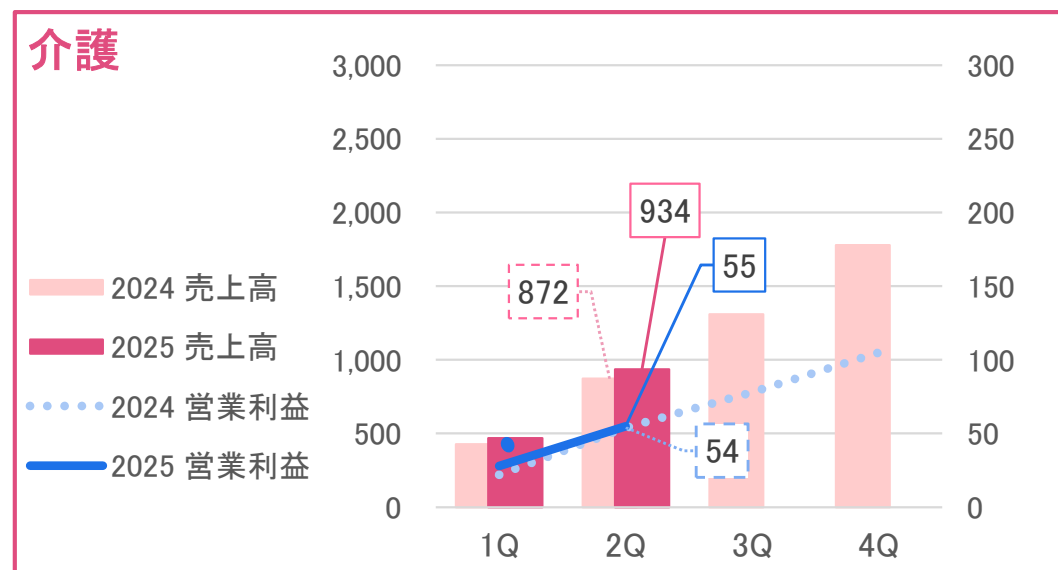
防災・工事



自動車 ロボット



介護



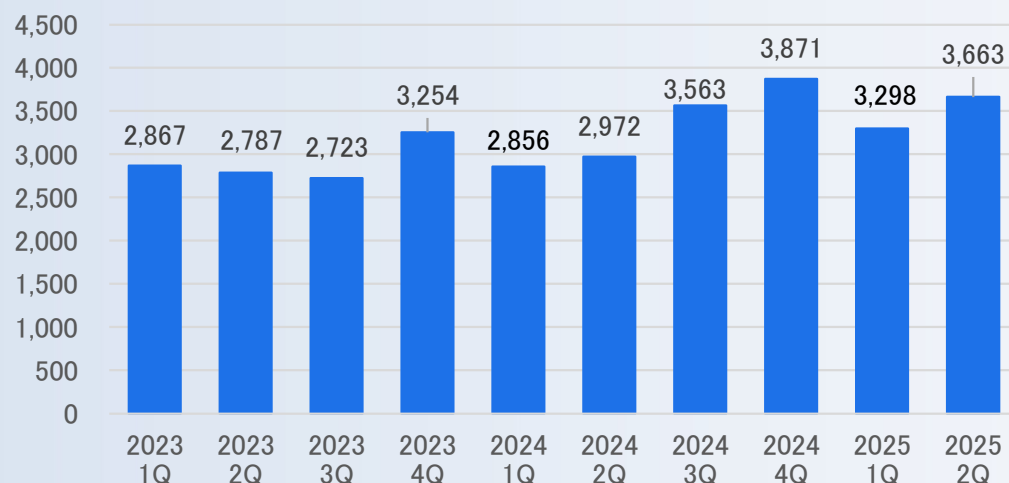
- 全ての事業セグメントが、前年同期比で増収増益となりました。
- 継手事業が、営業利益を大きく伸ばしました。(前年同期比+487万円、+65.2%)

◆ 継手事業

売上高の推移

単位: 百万円

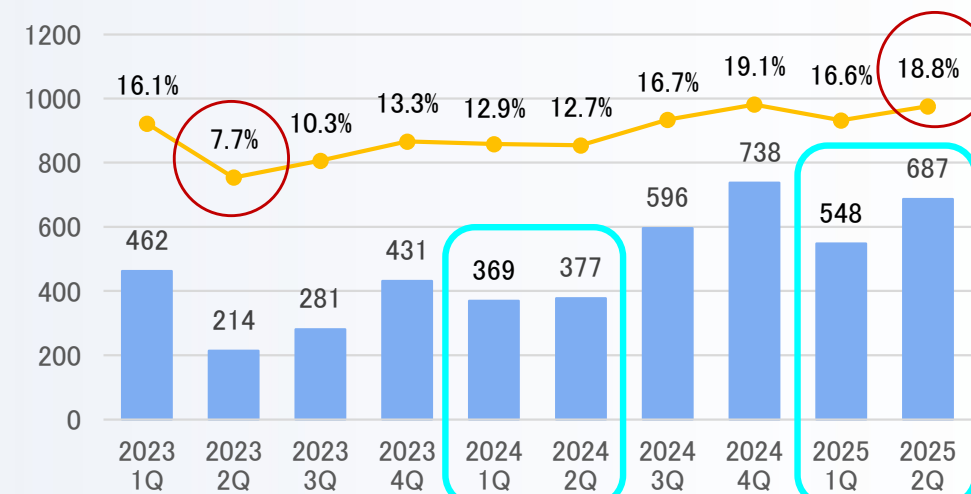
■ 売上高



営業利益の推移

単位: 百万円

■ 営業利益 ● 営業利益率



■ 売上高 6,962百万円 (前年同期比 +1,134百万円、+19.5%)

■ 営業利益 1,235百万円 (前年同期比 +487百万円、+65.2%)

➤ 前年同期比での増収増益に加え、利益率が、2023年2Qの7.7%を底に、当2Qは18.8%まで改善しました。

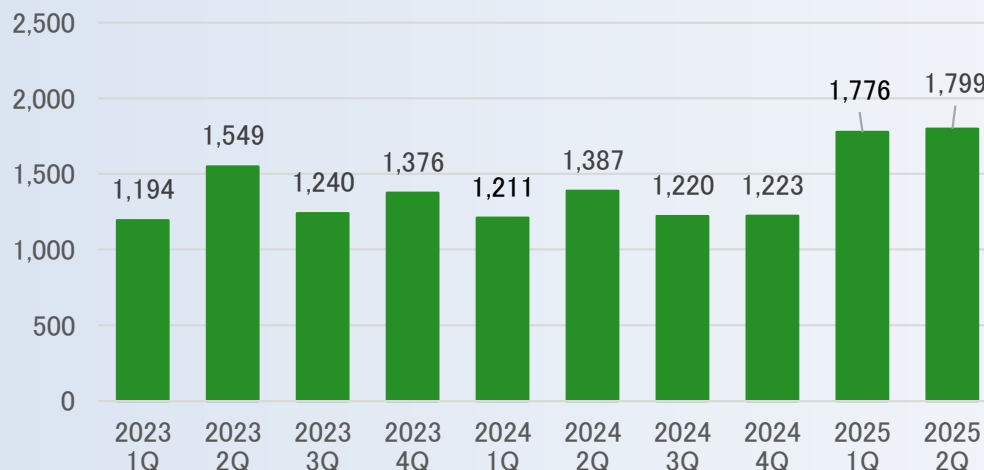
- ・ 物価高騰分の価格転嫁が進み、利益率が改善。
- ・ 高付加価値の真空機器は利益率が高く、国内外で半導体関連等の市場を中心に前年同期比で増収となり、増益に寄与。
- ・ フレキシブル継手と伸縮管継手は、建設市況が弱含みの中、前年同期比プラスで推移。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移

単位: 百万円

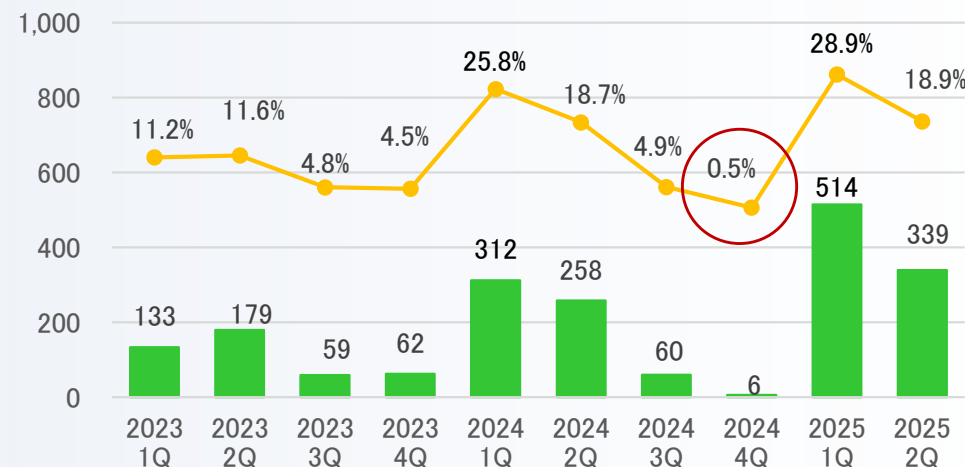
■ 売上高



営業利益の推移

単位: 百万円

■ 営業利益 ● 営業利益率



■ 売上高 3,575百万円 (前年同期比 +977百万円、+37.6%)

■ 営業利益 854百万円 (前年同期比 +282百万円、+49.4%)

➤ 前年同期比で増収増益となりました。

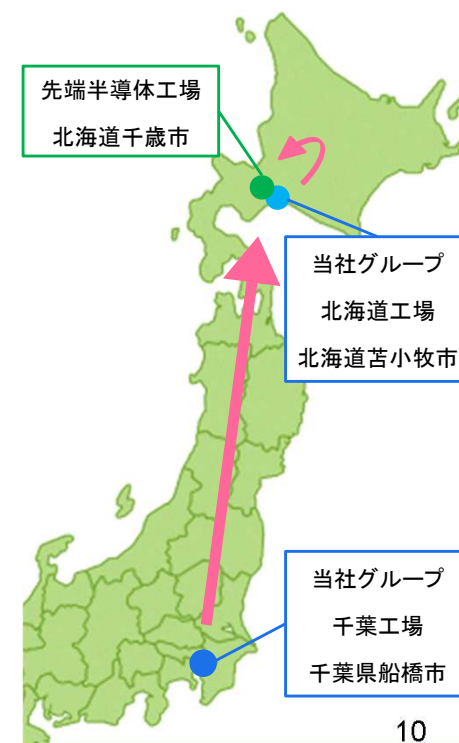
- ・ 当期1Qの利益率が高いのは、消防設備分野で、利益率の高い追加工事を売上計上したこと等が要因です。
- ・ 北海道の先端半導体工場の関連事業が、好調を維持しました。
- ・ 新設した北海道工場(北海道苫小牧市)の稼働による効果から、北海道の市場でコスト削減が進みました。
- ・ 建設市場は、全体的に工事遅延や着工延期が発生しており、弱含みな市況となっています。

北海道工場の投資効果

- 2024年春に、当社連結子会社のニトックス株式会社が 北海道千歳市の先端半導体工場で消防設備工事に着手し、当社グループの同半導体工場に係る事業が始まりました。
- 当初は、当社グループの北海道工場が未完成であり、北海道工場で行う予定の作業を千葉工場(千葉県船橋市)で代替し、道内に臨時の作業場を賃借する等、臨時の対応が必要でした。そのため、千葉県から北海道への輸送費や臨時作業場の賃料等のコストが負担となり、当セグメントの営業利益率は、(他の要因もありますが、)前期4Qに0.5%まで低下しました。
- 2024年11月、千歳市に隣接する苫小牧市に当社グループの北海道工場が完成し、12月中旬に稼働開始すると、長距離輸送や作業場のコスト負担が解消し、当期1Q以降は、営業利益率が改善しました。
- このように、当社にとって北海道工場の建設は、「距離」の利点を得るための投資であり、現時点において、期待に見合う投資効果を得られているものと考えております。

北海道工場の今後について

- 北海道では、千歳市の先端半導体工場に関連した案件と並行して、他の案件での事業拡大も見込まれることから、北海道工場の設備を増強してまいります。
- また、設備の増強に必要なスペースと、今後の事業拡大を踏まえ、北海道第2工場の建設について検討を開始いたしました。
- 北海道第2工場は、現在の北海道工場の敷地内に建設する方向で検討しておりますが、本検討は、従来より公表してまいりました「真空機器の製造工場を建設する構想」とは異なるものであり、製造工場を建設する構想に優先して検討してまいります。
- 北海道第2工場については、現時点で正式に決定した事項はございません。今後、具体的な事項が決定した際には、適時に開示してまいります。



◆ 自動車・ロボット事業



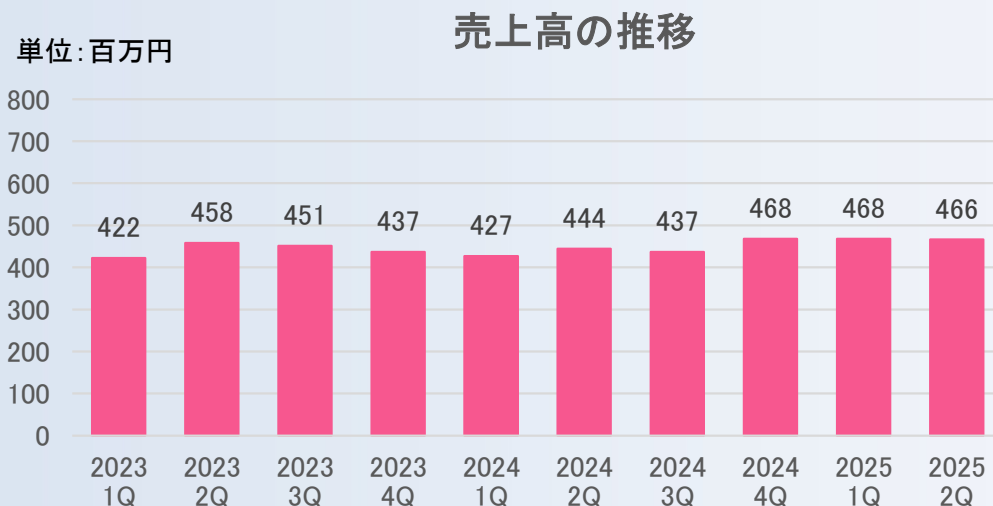
■ 売上高 1,041百万円（前年同期比 +73百万円、+6.8%）

■ 営業利益 43百万円（前期は営業損失 19百万円）

➤ 前期は赤字が続いていましたが、当期1Qに黒字転換し、収益は回復傾向にあります。

- ・ ロボット分野は、中国市場の低迷から大口顧客で在庫調整が続きましたが、同顧客が米国で市場を拡大し、在庫調整が落ち着いたため、当期1Q以降は回復傾向にあります。
- ・ 自動車分野は、物価高騰分の価格転嫁とコスト削減が進み、利益率が改善してまいりました。

◆ 介護事業



■ 売上高 934百万円 (前年同期比 +61百万円、 +7.1%)

■ 営業利益 55百万円 (前年同期比 +0百万円、 +1.7%)

- 福祉用具のレンタルと販売が増収となりました。
- 販管費の増加がありましたが、福祉用具レンタル用資産の減価償却が進んだことによる原価削減等から、堅調に推移しています。

2. 2025年12月期 業績予想

2025年12月期連結業績予想 SUMMARY 1



◆ 通期連結業績予想

単位:百万円

	前期2024年 通期業績	当期2025年 通期業績予想(7月15日付) ／ 前期比	当期2025年 2Q(中間期)累計業績 ／ 進捗率
連結売上高	22,041	23,700 ／ +7.5%	12,565 ／ 53.0%
連結営業利益	2,196	2,900 ／ +32.0%	1,919 ／ 66.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,313	2,500 ／ +90.4%	1,326 ／ 53.0%

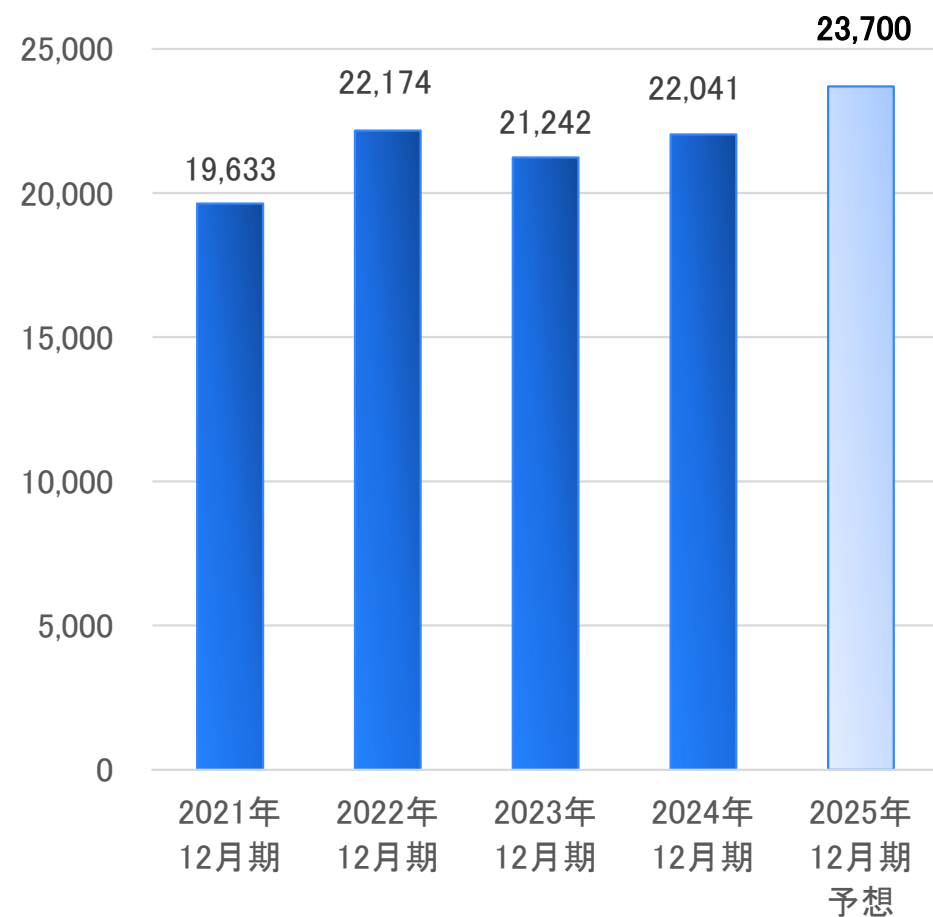
- ✓ 当期は、期初の業績予想(2025年2月10日付開示)を上回る増益となり、同年4月24日、6月13日および7月15日の計3回、業績予想の修正を開示しております。このうち上記の表では、直近の7月15日付の予想値との比較を表示しております。
- ✓ 通期業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益には、下期に不動産売却に伴い発生する見込みの特別利益(約640百万円の譲渡益)を含んでいます。
- ✓ 通期の業績予想は、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であったため、当社グループの業績への影響を算定することが難しく、期初の業績予想に上記の特別利益を加味した金額としてまいりました。今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示いたします。

2025年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



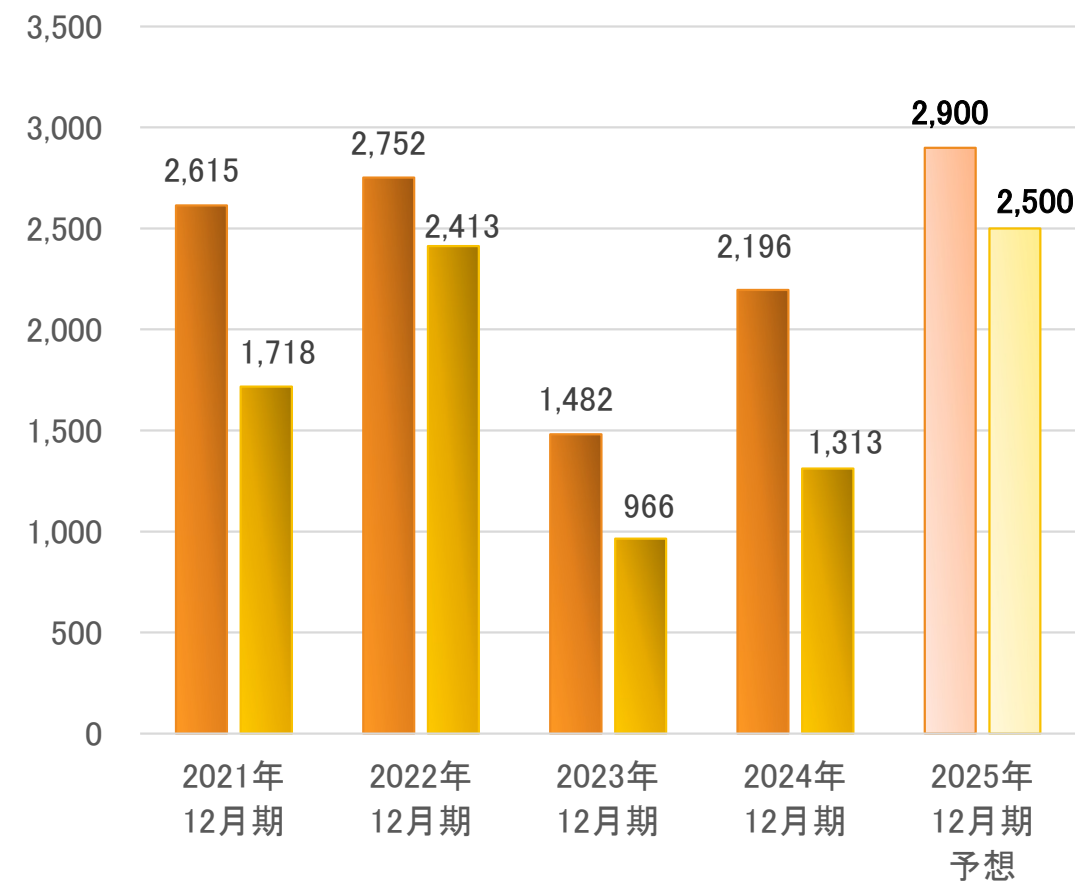
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

- 引き続き、国内外の半導体関連を中心に、真空機器が収益を牽引し、継手事業は前年同期比で増収増益となる予想ですが、現時点で建設市況が弱含みであり、注視してまいります。

◆ 防災・工事事業

- 半導体関連が好調を維持する予想ですが、防災・工事事業も建設市況の影響を受けるため、継手事業同様に注視してまいります。

◆ 自動車・ロボット事業

- ロボット分野の増収増益と、自動車分野のコスト削減が継続し、セグメント業績の回復を見込んでいます。

◆ 介護事業

- 堅調な推移を見込んでおります。

3. 配当金について

中間配当と 期末配当予想について



(基準日)	1株あたり配当金(円)		
	中間配当金 (2025年6月30日)	期末配当金 (2025年12月31日)	合計(年間配当予想)
当期の配当額	27円00銭	27円00銭(予想)	54円00銭(予想)
前期の配当額	27円00銭	27円00銭	54円00銭

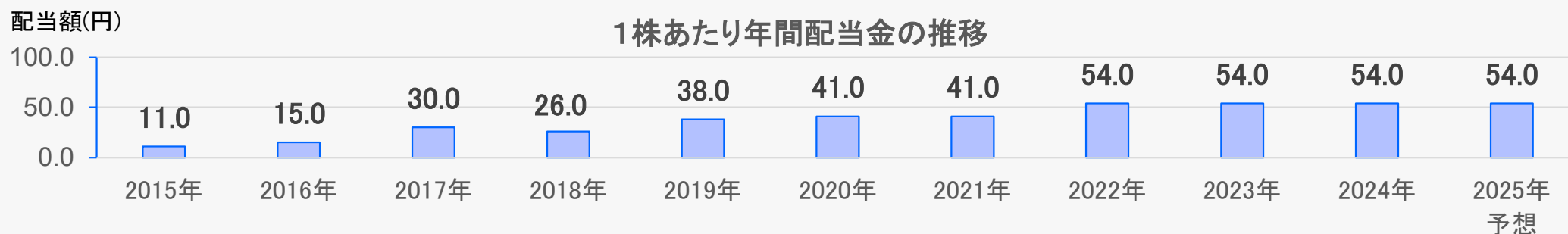
◆ 中間配当について

当期(2025 年12 月期)の中間配当金は、当期の業績および中長期的な事業展開等から総合的に判断し、期初の配当予想のとおり、1株当たり27 円00 銭といたしました。お支払い開始日は、2025年8月18日を予定しています。

◆ 期末および年間の配当予想について

当社は、株主様への利益還元について、安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、業績の推移、長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、及び内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、安定的かつ継続的な配当を基本方針としています。

当期の期末および年間の配当金につきましては、期初に公表した配当予想の通り、1株当たり期末27円00銭(年間54円00銭)を予定しています。



※ 2017年度の配当額30円は、創立40周年記念配当3円を含みます。

4. 決算説明動画のご案内

2025年12月期 第2四半期(中間期)決算説明動画のご案内



- ◆ 2025年12月期 第2四半期(中間期)決算説明動画の配信を、下記の通り予定しておりますので、ご案内申し上げます。

◆2025年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明動画の概要

- 公開日時 2025年8月29日(金)17:00(予定)
- 掲載場所 当社ホームページ内のIR資料ページ
- 説明者 代表取締役社長 前島 岳

- ◆ 動画は、どなたでもご視聴いただけます。
アナリスト・機関投資家に限定したものではありません。
- ◆ 2026年2月頃までの配信を予定しております。
- ◆ ご視聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

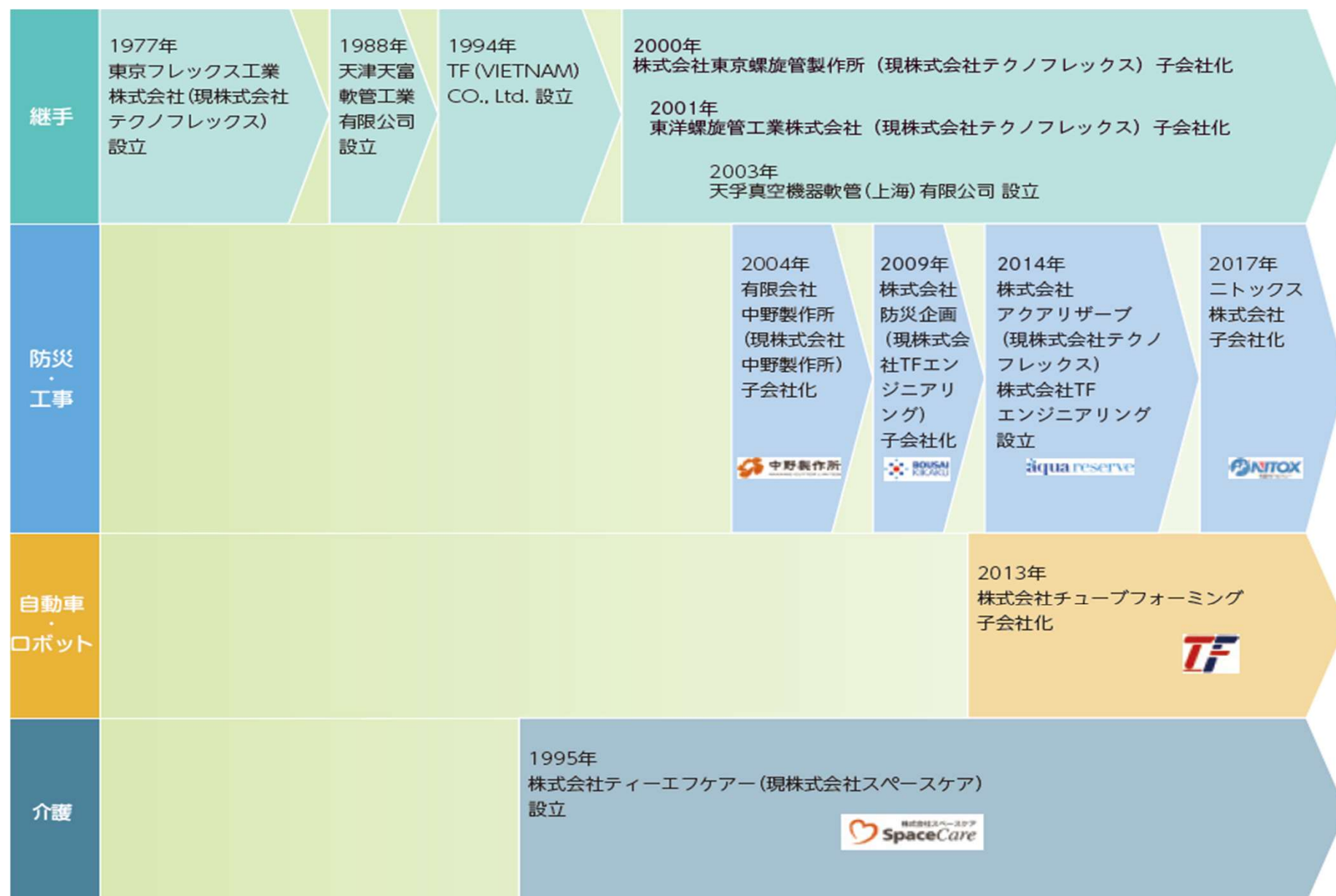


当社ホームページ

- トップページ <https://www.technoflex.co.jp/>
- IR資料 <https://www.technoflex.co.jp/ir/material.html>

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前1丁目5番1号
資本金	10億円(2024年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:358名(2024年12月31日現在) 連結:1,005名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。



※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



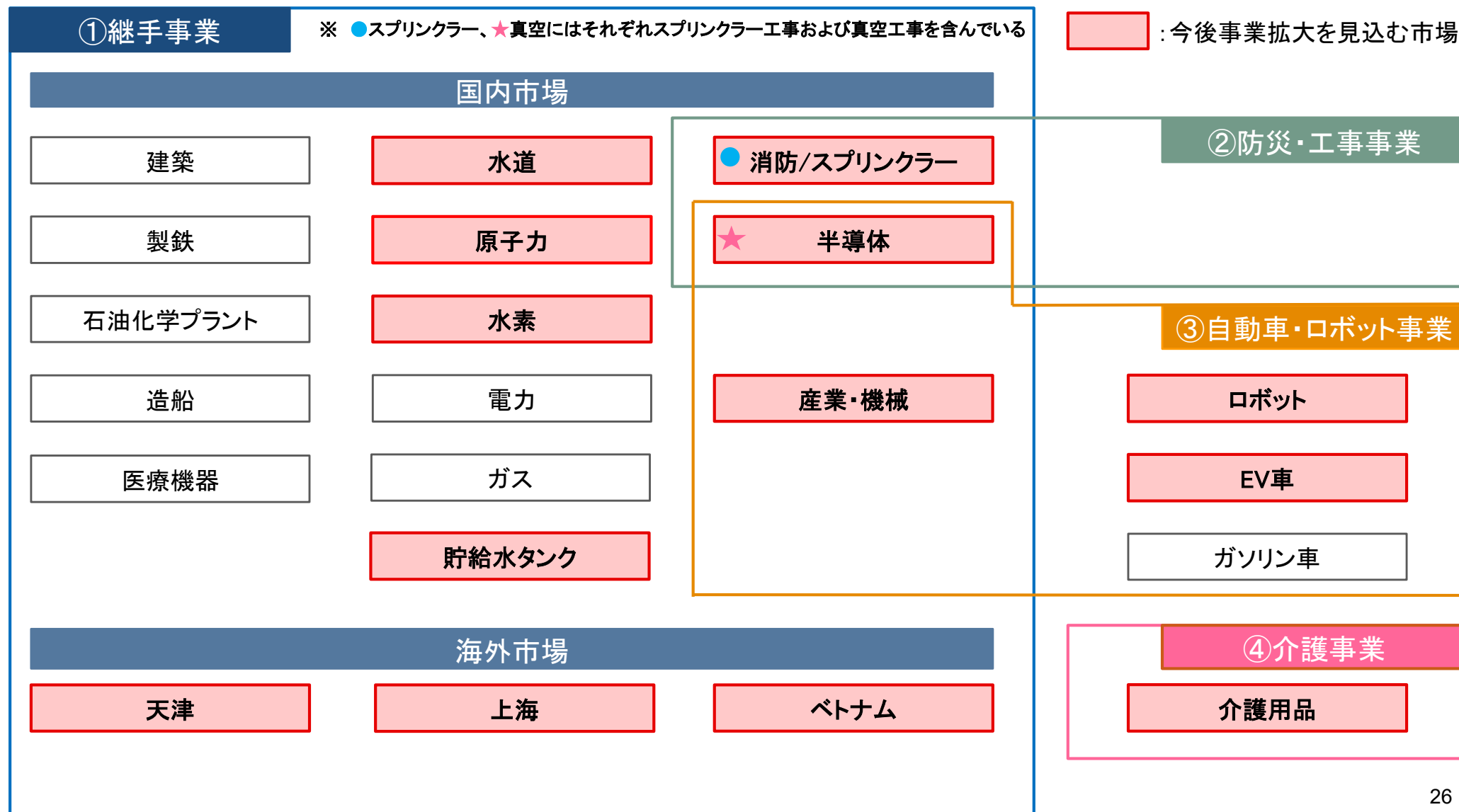
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目

- 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
- 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

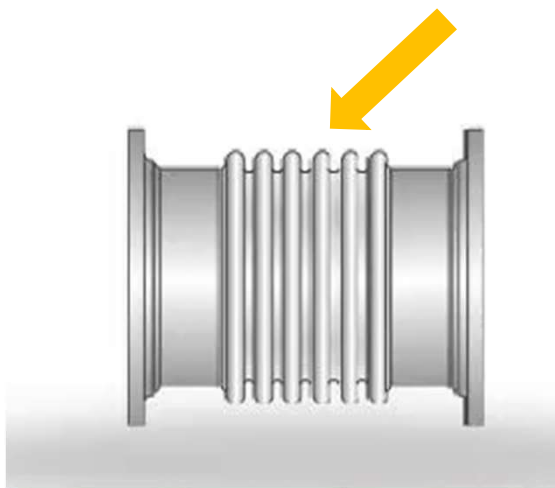
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で
伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の
継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

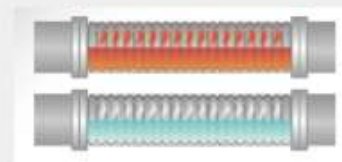
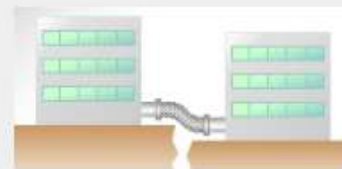


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



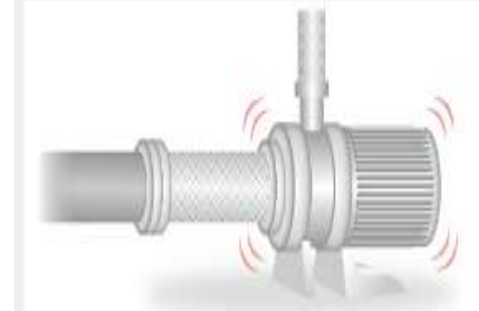
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



作業効率



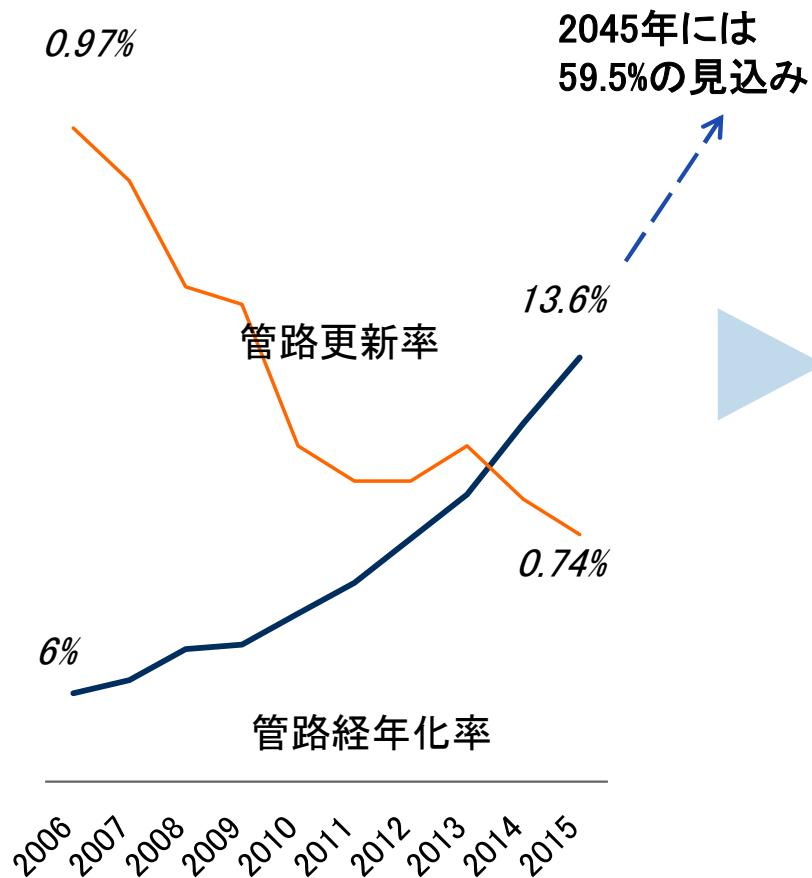
大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手 (SDF工法)



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



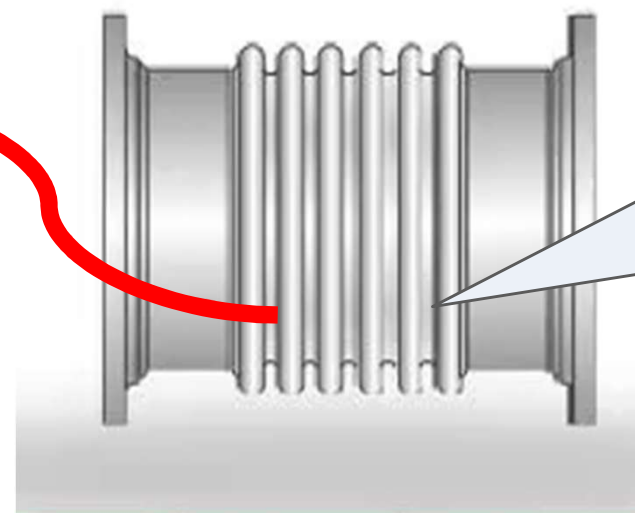
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)



- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、
伸縮します。
角度を付けることも
できます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)



● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - **真空機器の需要が拡大。**
- ◆ 当社の真空機器は、**半導体・FPD等の製造装置用**、**真空ポンプ用**、**装置間真空配管用**の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ **チラーホース、クライオホース**のマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。

真空機器
の用途

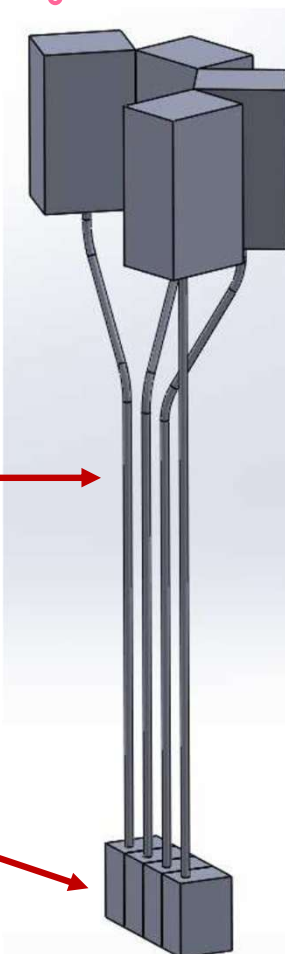
チラーホース
クライオホース

高真空化・極高真空化

半導体・FPD等の
製造装置に設置
装置メーカーへ出荷

装置間の
真空配管に設置
工場の真空配管設置現場へ出荷

真空ポンプに設置
ポンプメーカーへ出荷



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

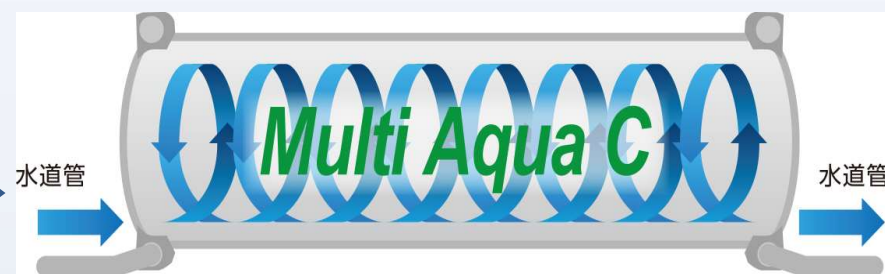
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、**配管工事**と**切断装置**の2つの事業。

配管工事

- 消火設備分野
 - ・ スプリンクラー等の消火用配管や設備の設置工事
 - ・ 消火用配管のプレハブ加工
- 真空配管分野
 - ・ 半導体工場等の真空配管の設置工事
 - ・ 真空配管のプレハブ加工



自動切断機

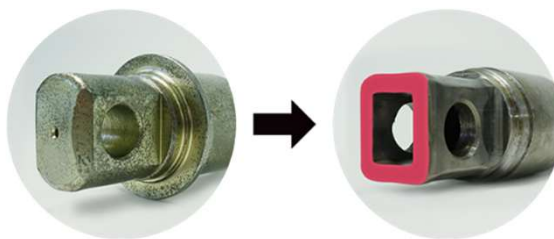
水道管及び電柱の切断装置

- ・ 自走しながら配管や電柱を切断。
- ・ 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (AIの普及、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防 スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
自動車 ロボット	防災・工事	✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加 ✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
	ガソリン車	✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し ✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み ✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。